



1. 生育概況

(地区生育観測圃：8月2日現在)

現在、各品種ともに出穂期～穂揃期を迎えております。当地区の生育観測圃の出穂期はほぼ平年並みでしたが、今年は圃場により出穂のバラツキが大きくなっております。

気象庁発表の1ヶ月予報では、8月は気温が高く推移すると予想されていることから、胴割粒の発生が心配されるため、状況に応じた水管理で良品質米の生産に努めましょう。

出穂始め：圃場全体の10～20%が出穂した日
出穂期：圃場全体の40～50%が出穂した日
穂揃期：圃場全体の80%以上が出穂した日

品種 (調査地域)	出穂始 (JA管内平年)	出穂期 (JA管内平年)	穂揃期 (JA管内平年)
まっしぐら (西目屋：大秋)	7月27日 (7月31日)	7月30日 (8月2日)	8月1日 (8月2日)
青天の霹靂 (岩木：熊嶋)	7月31日 (7月30日)	8月2日 (8月2日)	8月4日頃 (8月4日)
はれわたり (岩木：一町田)	7月30日 (7月29日)	8月1日 (7月30日)	8月2日 (8月2日)

2. 水管理

【生育ステージ毎の水管理】

生育ステージ	水深	備考
出穂・開花期 (8月1日～)	寒い日：10cm 暖かい日：5cm 寒い日：日平均気温20度以下	この時期の低温は開花・受精不良による障害不稔の原因となるので低温時は深水にして保温しましょう。
登熟期 (8月11日頃～)	寒い日：10cm 暖かい日：3cm 寒い日：最低気温15度以下	湿田では根腐れが発生しやすいので間断かんがいを行い根の機能を低下させないようにしましょう。

【落水タイミング】

落水時期 【目安】	湿田	乾田 普通田	早期落水は収量の低下や胴割粒の発生を助長します。 収量・品質を確保するためにも適期落水に努めましょう。
	出穂後20日～25日頃 【8月21日～8月26日頃】	出穂後30日～35日頃 【8月31日～9月5日頃】	

上記の月日ははれわたりの出穂期を基準にしています。
青天の霹靂の落水時期は出穂後30日～35日です。

3. カメムシ対策

カメムシを圃場に呼び込まないよう9月上旬まで草刈りは行わないでください。県の発表では平年よりカメムシの発生が多いと発表されています。適期防除を徹底しましょう。

カメムシ被害による落等

カメムシの被害粒が1,000粒中2粒あると2等米、7粒で3等米へ落等します。特に3等はカメムシ防除を徹底し1等米を目指しましょう！



カメムシの被害粒

胴割粒対策

出穂後10日間の最高気温が30を超える場合、胴割粒の発生リスクが高まります。稲体の温度を下げることで発生を抑えることができます。高温が予想される場合は積極的にかけ流しを行いましょ。



高温による胴割粒

4. 病害虫防除

散布時期	散布薬剤	10a当たり	対象病害虫	JA米	青天の霹靂
穂揃期 (8月3日頃)	キラップ粉剤 DL 又は スタークル1キロH粒剤	3～4kg 1kg	カメムシ	○	×
穂揃い7日～14日後 (8月10日～17日頃)	スタークル粉剤 DL 又は スタークル液剤(航空防除)	3～4kg 100ml	カメムシ	○	○

穂揃期にスタークル粒剤を使用した場合は散布できません。